

2. 高齢者お達者プランの策定状況について

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 の結果について



加賀市健康福祉部長寿課

平成 29 年 10 月 26 日

介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 (速報版)

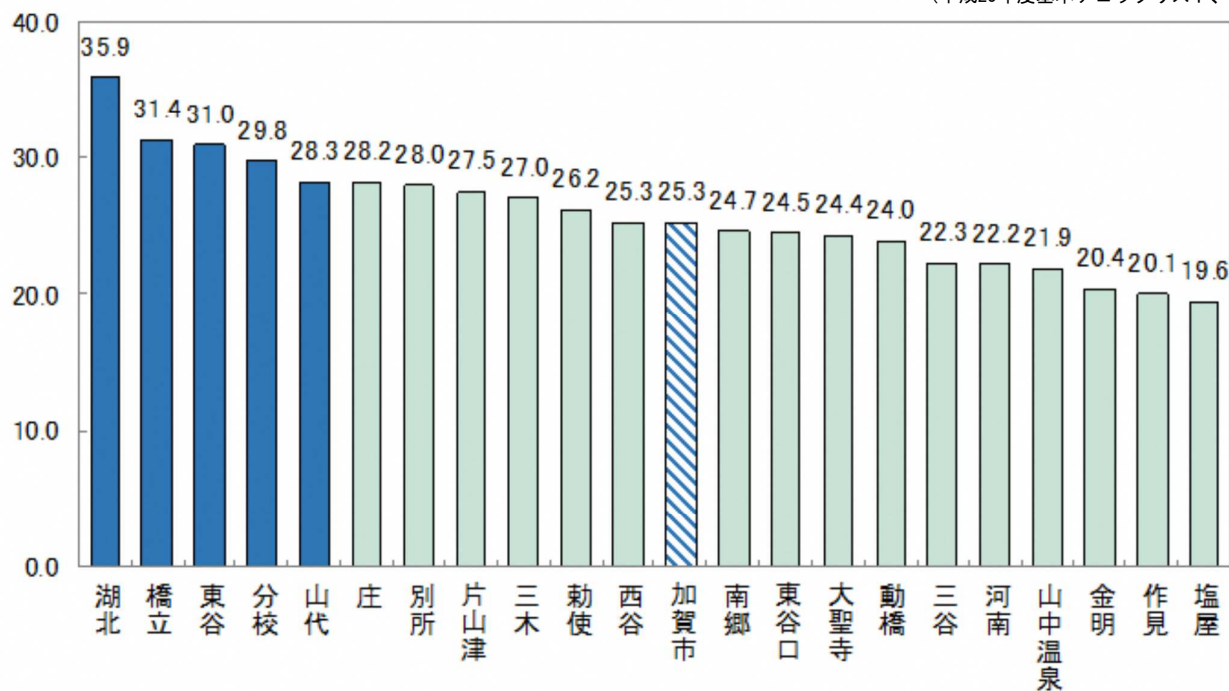
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

目的	・要介護状態になる前の高齢者の「悪化につながるリスクの発生状況」「社会参加状況」「社会資源」の把握。 ・「要介護度の悪化に影響を与える日常生活の状況」の把握。 ↓ 地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定 第7期介護保険事業計画への反映	
調査対象者	要支援・要介護認定結果を持っていない70歳以上の方	
発送日	平成29年6月13日（回収期間：平成29年12月28日まで）	
発送数	11,997名	
回収数	4,454名（回収率：37.2%） 7月10日までの回収分	
調査項目数	46項目	
設問内容	【リスクの発生状況の把握】 ・運動機能の低下 ・低栄養の傾向 ・口腔機能の低下 ・閉じこもり傾向 ・認知機能の低下 ・転倒リスク 等	【社会資源の把握】 ・ボランティア等への参加頻度 ・たすけあいの状況 ・地域づくりの場への参加意向 ・主観的幸福感 等
その他	平成25年度との調査結果とも比較し、どのように変化しているかも併せて確認、分析。 (平成25年度回収数：7,234名)	

足腰など筋力が低下している者の割合(H25) 地区別比較

(%)

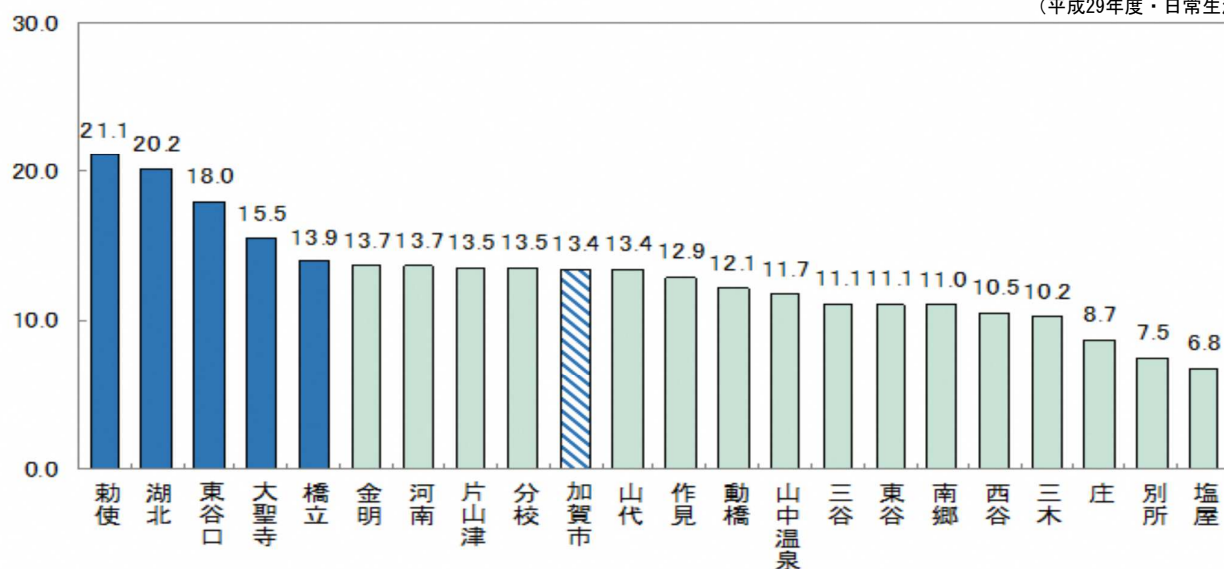
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



足腰など筋力が低下している者の割合(H29) 地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

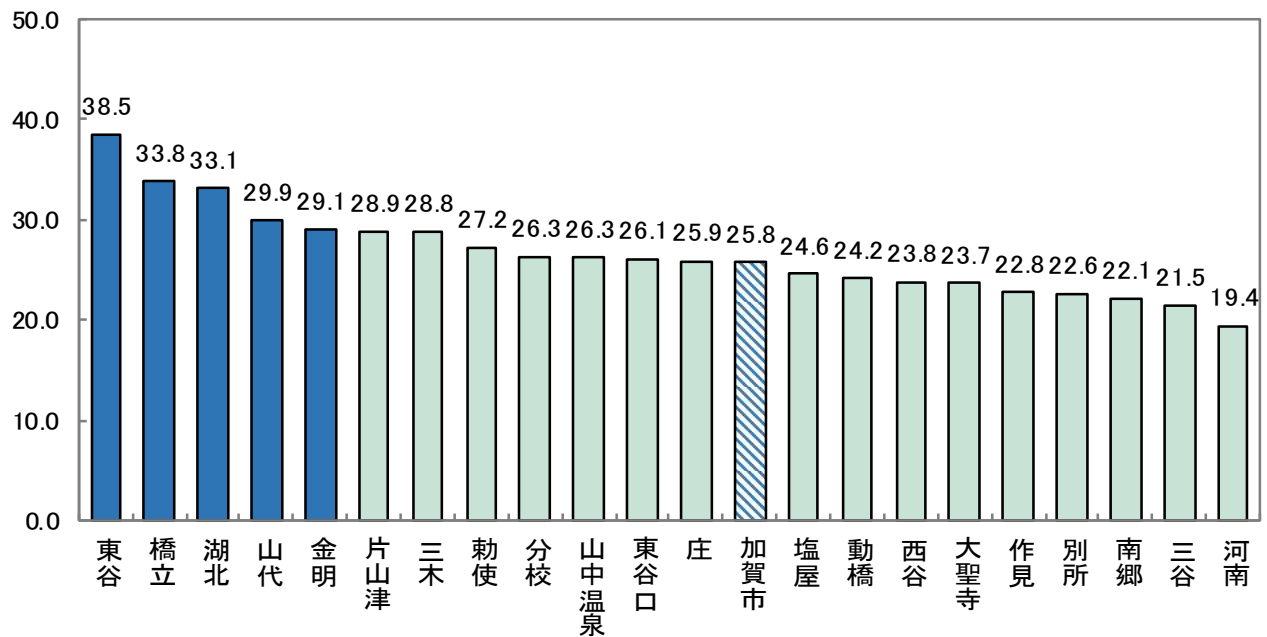


- 平成29年度において、足腰など筋力が低下している者の割合が高い地区は、勅使地区、湖北地区、東谷口地区と続き、約2割となっている
- 湖北地区、橋立地区については、25年度29年度ともに上位地区である。

転倒リスクの可能性が高い者の割合(H25)地区別比較

(%)

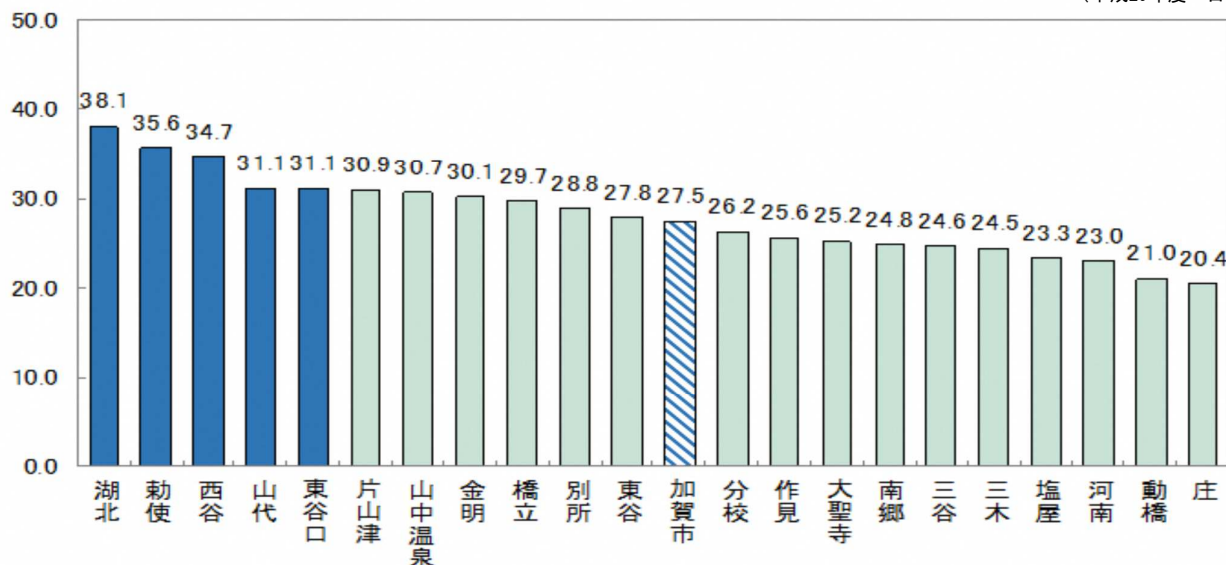
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



転倒リスクの可能性が高い者の割合(H29)地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

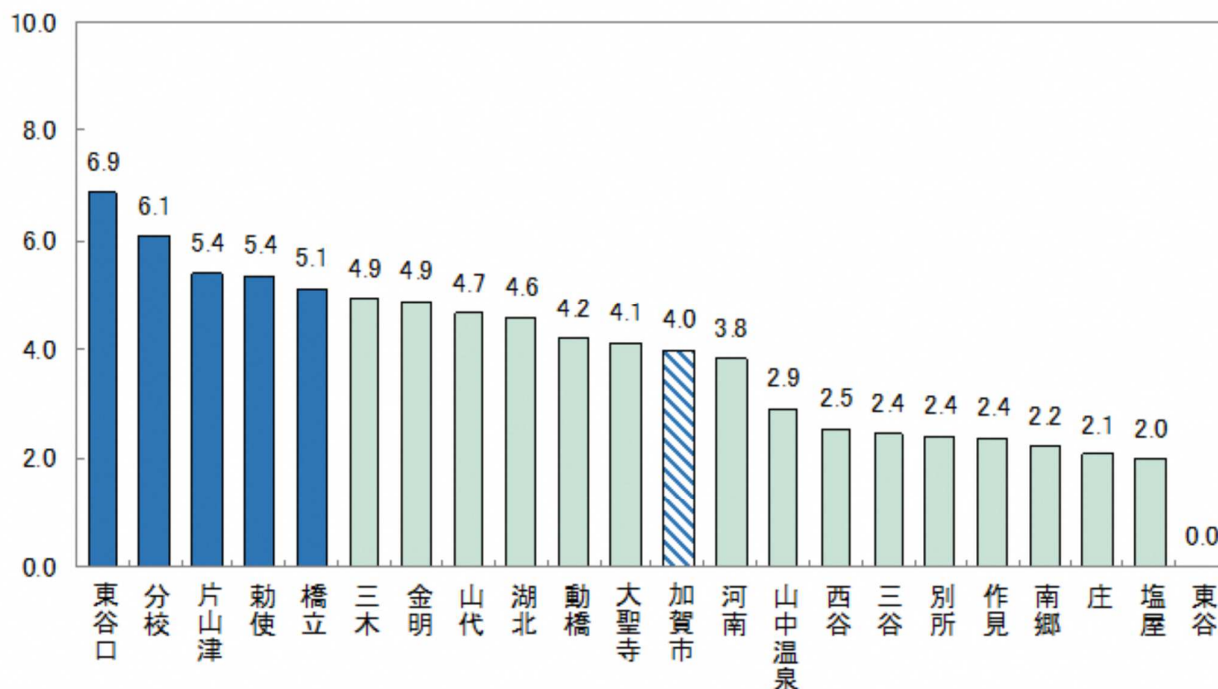


- ・転倒リスクの可能性が高い者の割合が高い地区は、湖北地区、勅使地区、西谷地区と続く
- ・湖北地区、山代地区については、25年度29年度ともに上位地区である。

栄養が足りていないおそれのある者の割合 (H25) 地区別比較

(%)

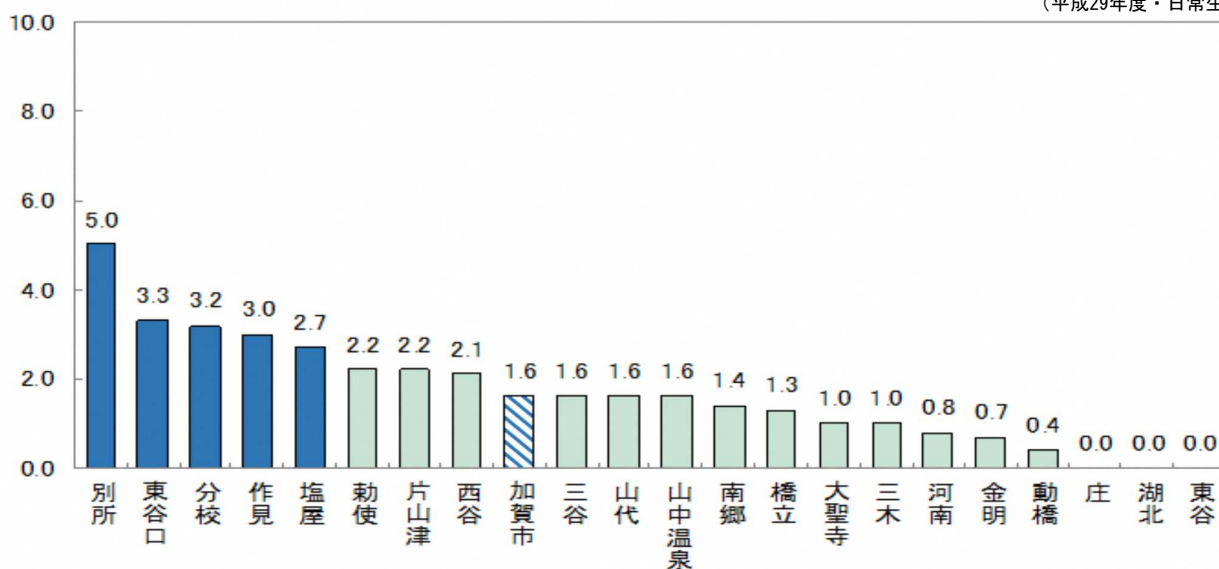
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



栄養が足りていないおそれのある者の割合 (H29) 地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

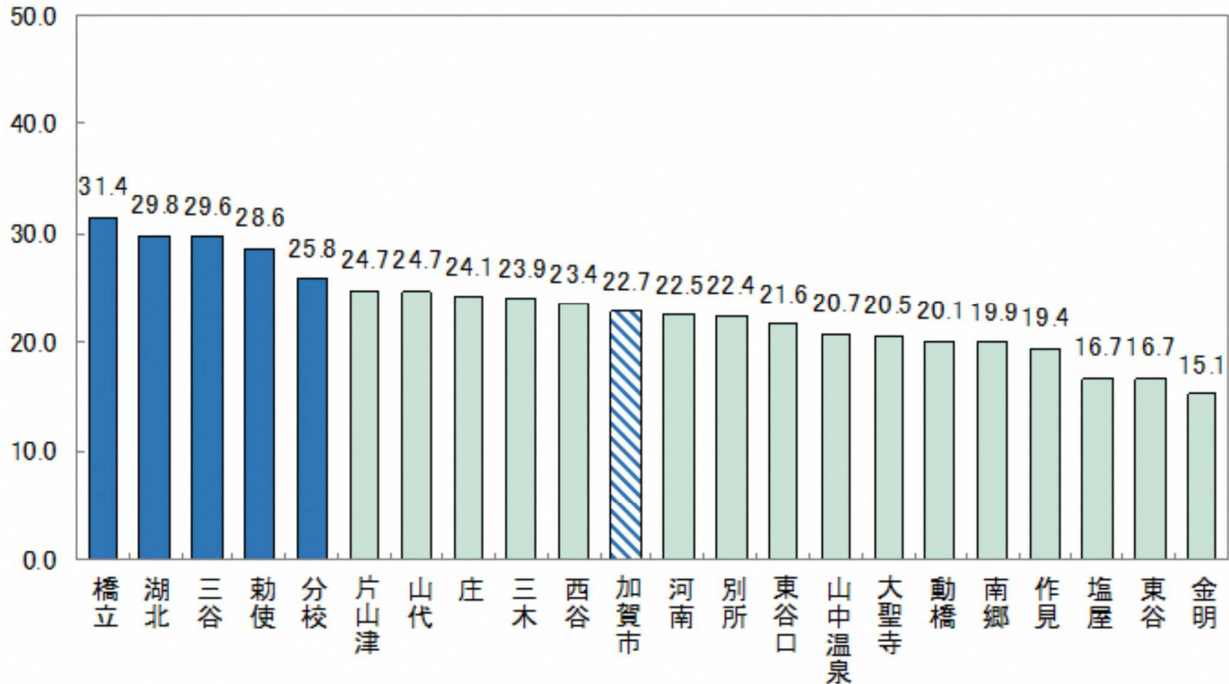


- ・栄養が足りていないおそれのある者の割合が高い地区は、別所地区、東谷口地区、分校地区と続く。
- ・東谷口地区、分校地区については、25年度29年度ともに上位地区である。
- ・作見地区、塩屋地区については、25年度では市平均より低かったが、29年度には上位地区に入っている。

口腔機能の低下が見られる者の割合(H25) 地区別比較

(%)

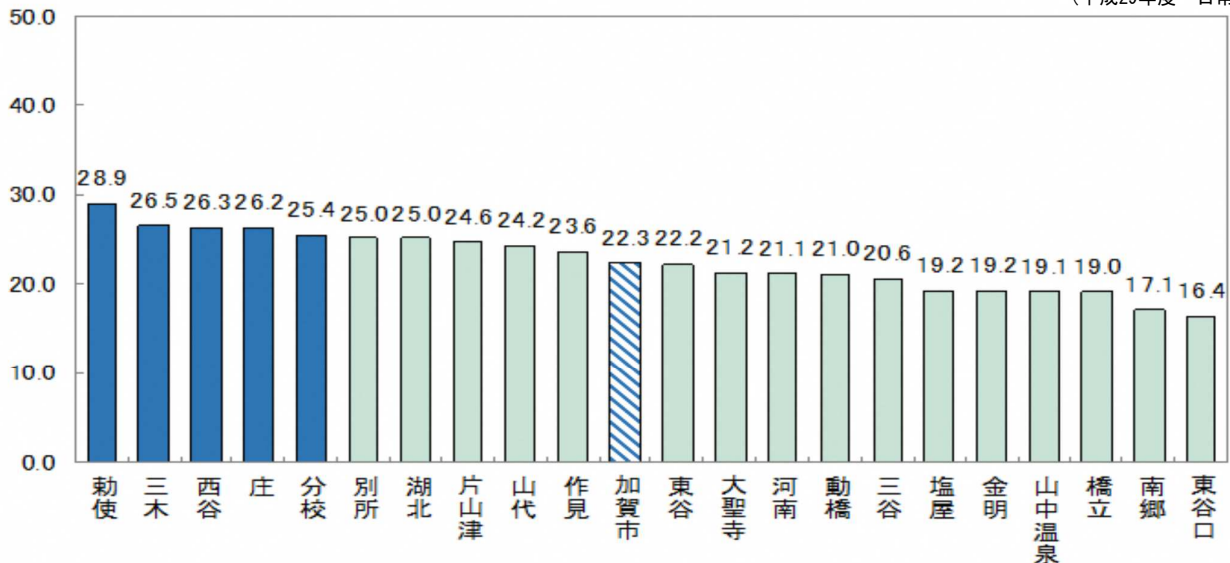
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



口腔機能の低下が見られる者の割合(H29) 地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

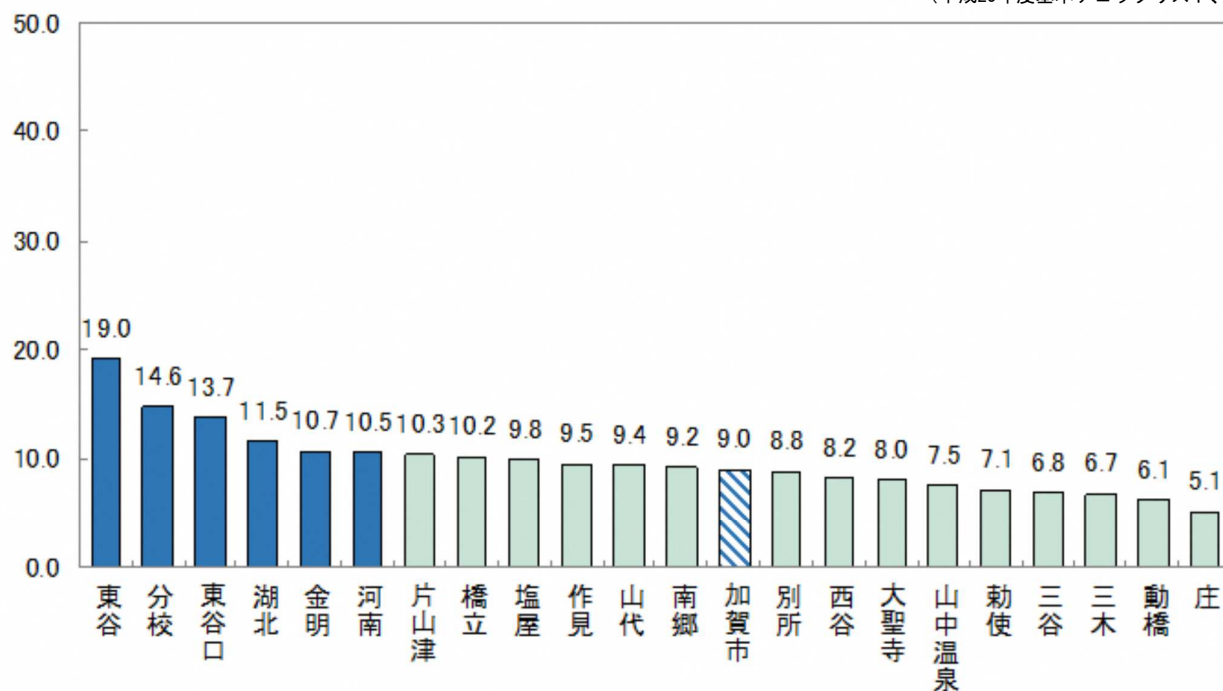


- 口腔機能の低下が見られる者の割合が高い地区は、勅使地区、三木地区、西谷地区と続く。
- 勅使地区、分校地区については、25年度、29年度ともに上位地区である。
- 25年度最上位であった橋立地区については、29年度には市平均より低い状況で19%であった。25年度と比較して、口腔機能の低下が見られる者の割合が12.4%とおよそ1割減少している。

閉じこもりぎみの方の割合(H25) 地区別比較

(%)

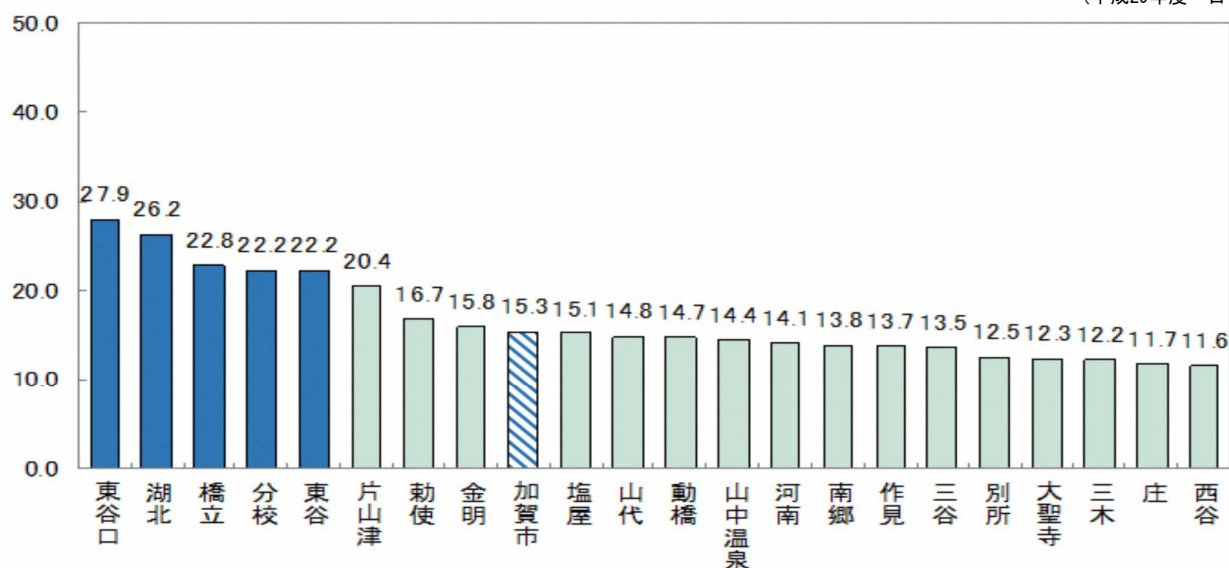
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



閉じこもりぎみの方の割合(H29) 地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

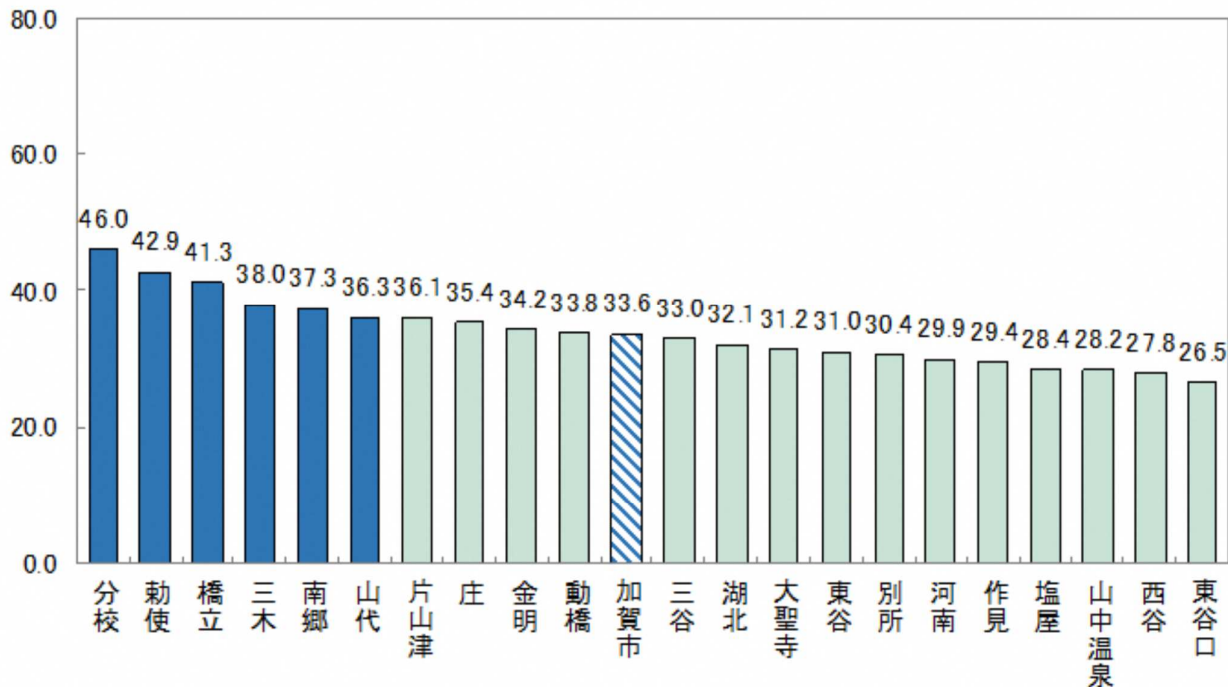


- ・閉じこもりぎみの方の割合が高い地区は、東谷口地区、湖北地区、橋立地区と続く
- ・東谷口地区、湖北地区、分校地区、東谷地区については、25年度、29年度ともに上位地区である。

認知機能の低下が見られる者の割合(H25) 地区別比較

(%)

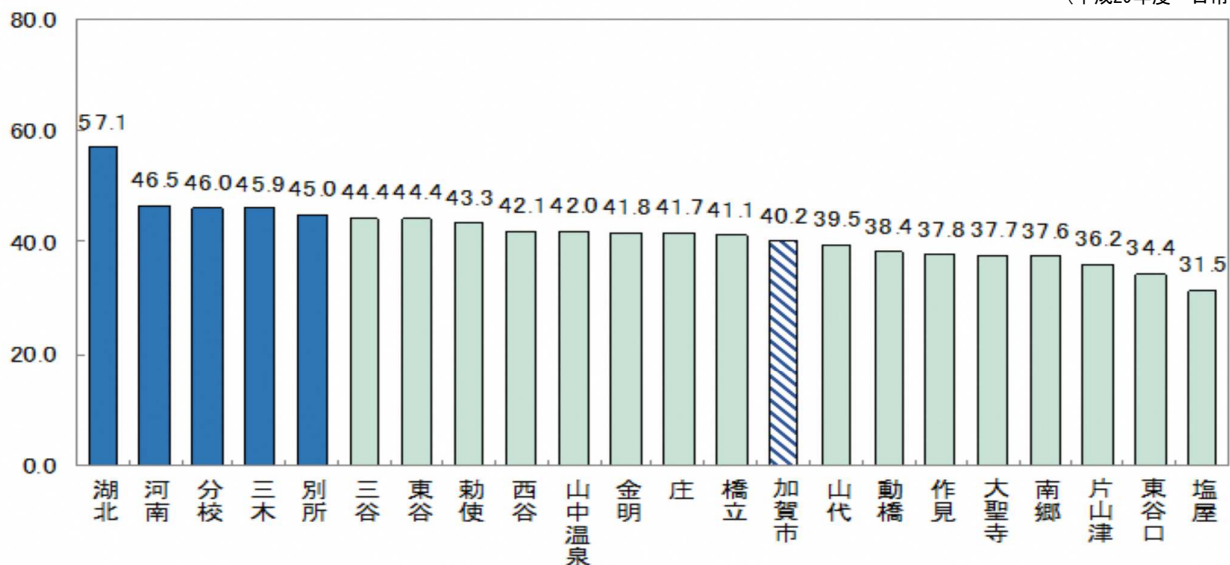
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



認知機能の低下が見られる者の割合(H29) 地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

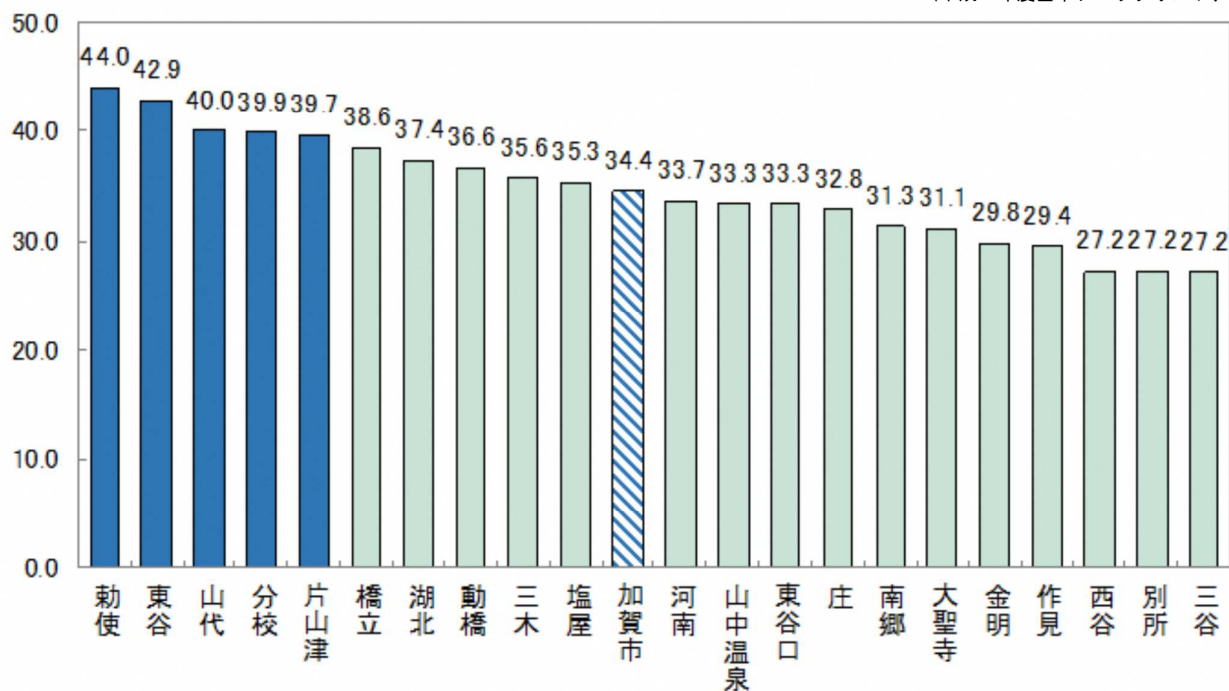


- 認知機能の低下が見られる者の割合が高い地区は、湖北地区、河南地区、分校地区と続き、湖北地区は57.1%とおおよそ6割となっている。
- 湖北地区、河南地区については、25年度では市平均より低い位置であったが、29年度では上位になっている。
- 分校地区、三木地区については、25年度、29年度ともに上位地区である。

うつ傾向のおそれのある者の割合(H25)地区別比較

(%)

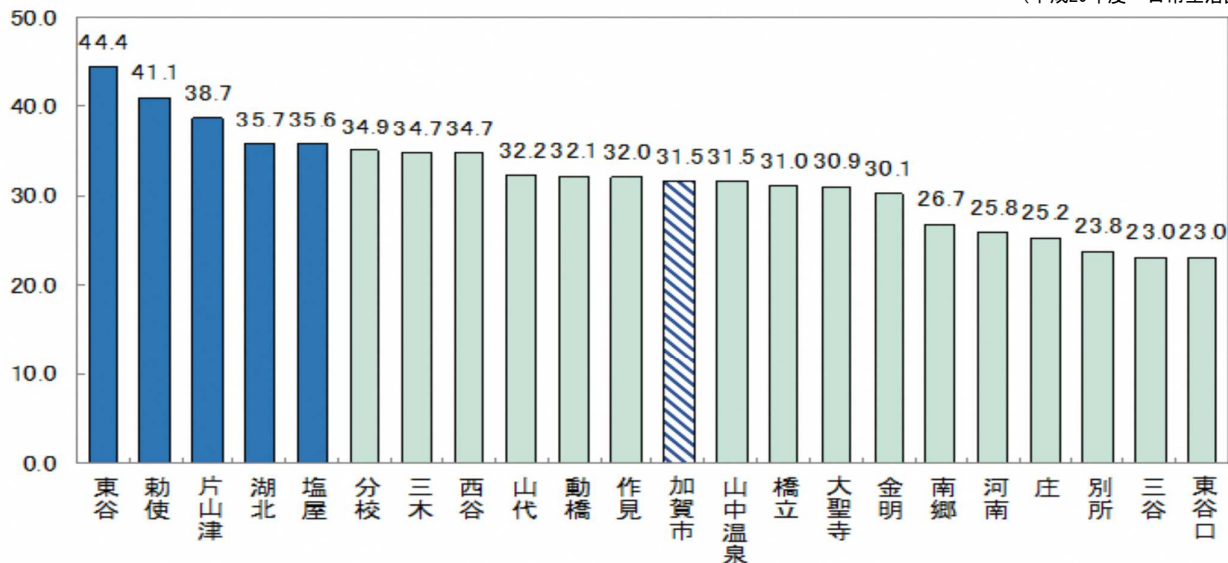
(平成25年度基本チェックリスト、ただし70歳以上のみ)



うつ傾向のおそれのある者の割合(H29)地区別比較

(%)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

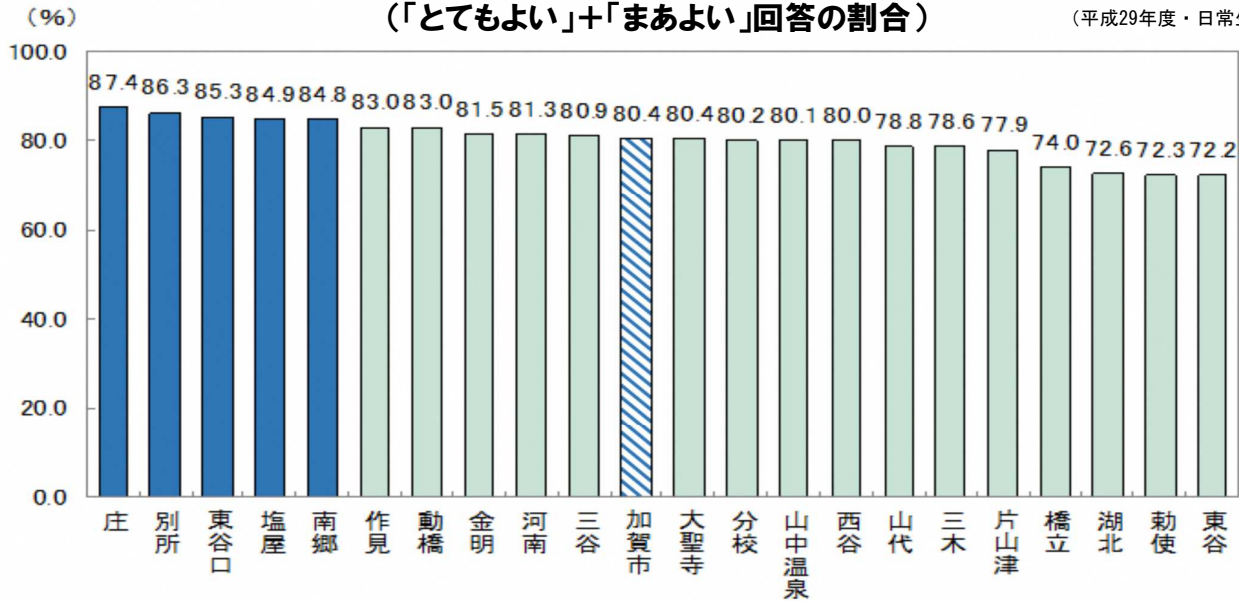


- うつ傾向のおそれのある者の割合が高い地区は、東谷地区、勅使地区、片山津地区と続き、東谷地区、勅使地区はおよそ4割を超えている
- 東谷地区、勅使地区、片山津地区については、25年度、29年度ともに上位地区である。
- 市平均では29年度において31.5%とおおよそ高齢者の3人に1人がうつ傾向のおそれがある状況であるが、25年度から比べると、3%程度減少している。

主観的健康観(H29)地区別比較

現在、あなたの健康状態はいかがですか
(「とてもよい」+「まあよい」回答の割合)

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)

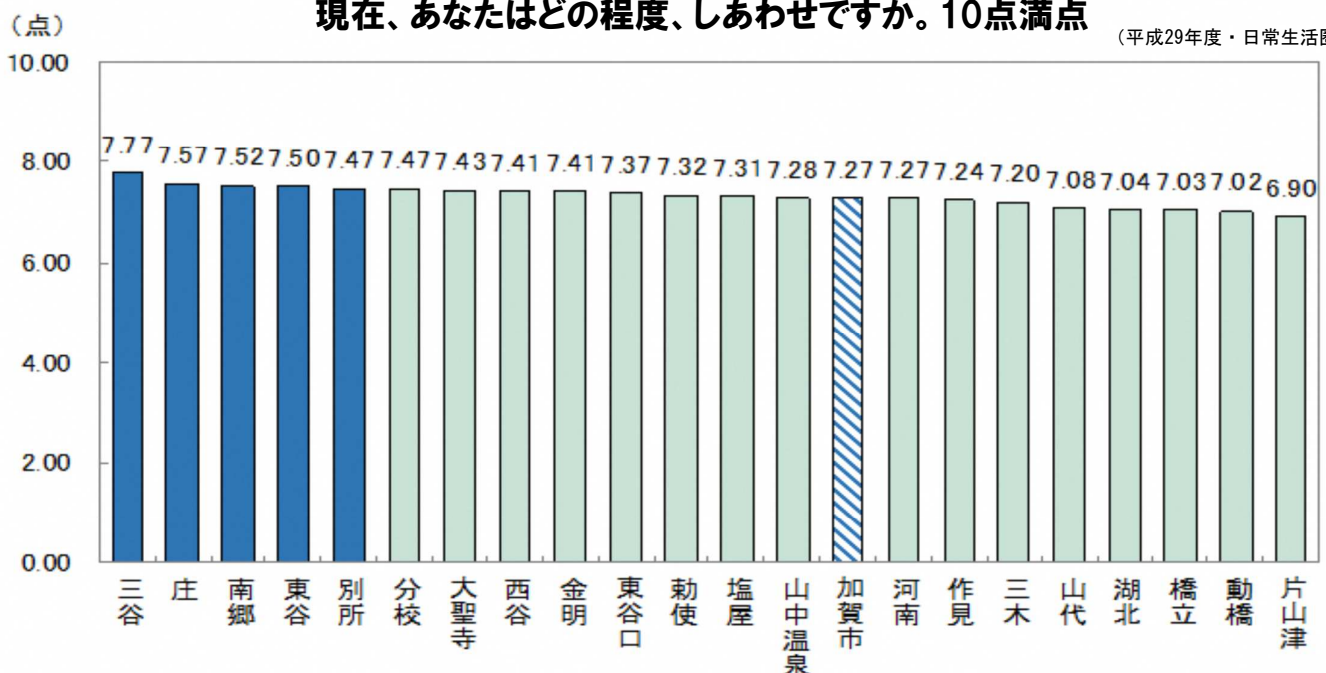


- 主観的健康観が高い地区は、庄地区で87.4%、ついで別所地区で86.4%、東谷口が85.3%と続く。
- 一番健康と感じていない地区、東谷地区で平均より、8.2%低く、72.2%である
- 市平均では80.4%とおよそ8割の高齢者が健康であると回答している。

主観的幸福感(H29)地区別比較

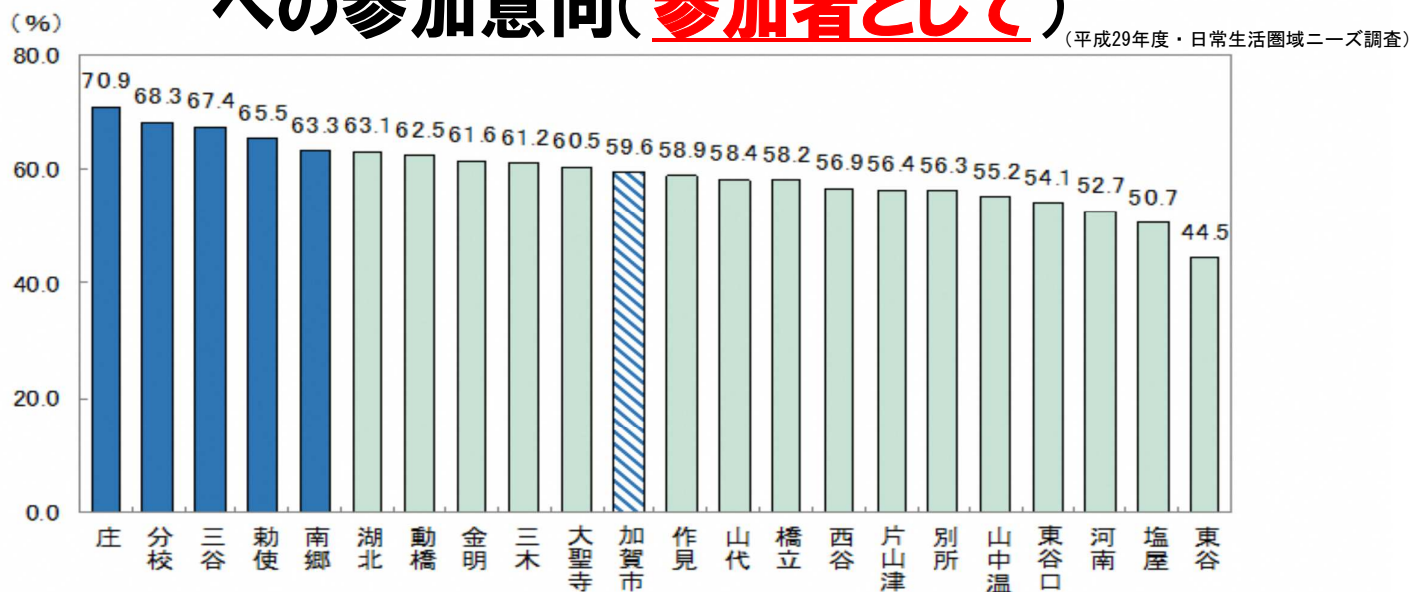
現在、あなたはどの程度、しあわせですか。10点満点

(平成29年度・日常生活圏域ニーズ調査)



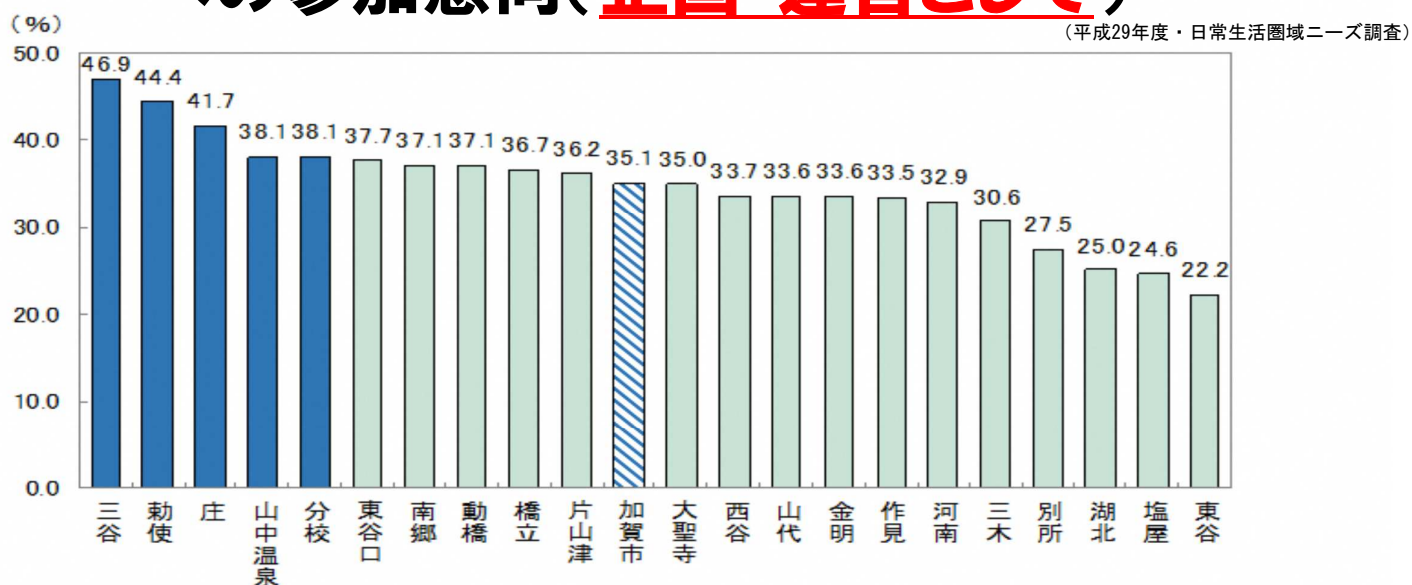
- 幸福度が高い地区は、三谷地区で7.77点、ついで庄地区が7.57点、南郷地区が7.52点であった
- もっとも幸せと感じていない地区は、片山津地区で平均より、0.37点低く6.9点であった

健康づくり活動や趣味等のグループ活動 への参加意向(参加者として)



- ・「参加者として」の参加意向は、庄地区が70.9%と最も高く、次いで、分校地区が68.3%、三谷地区が67.4%となっている
- ・最も低いのは「企画・運営として」の意向でも一番低かった東谷地区で44.5%となっており、最上位と比べて、30%近く低い状況であった。
- ・市平均では、およそ6割の高齢者が、健康づくり活動等に「参加したい」という意向であった。

健康づくり活動や趣味等のグループ活動 への参加意向(企画・運営として)



- ・「企画・運営として」の参加意向は、三谷地区が46.9%と最も高く、次いで、勅使地区が44.4%、庄地区が41.7%となっている
- ・最も低いのは、「参加者として」の意向でも一番低かった東谷地区で22.2%となっている
- ・市平均では、35.0%とおおよそ3人に一人が「企画・運営に参加しても良い」という結果であった。